

# 日黒寄生虫館月報

昭和35年9月10日発行・毎月1回10日発行

第 19 号

昭和 35 年 9 月

## 寄生虫分類学とソ連 (1)

北大獣医学部 山 下 次 郎

私が寄生虫学に手を染めてから 25 年になる。学生時代に魚の寄生虫を調べようとしたのがそもそもの初まりであるが、それから間もなく私は研究の対象を魚以外の寄生虫に変えた。斯界の権威者と言われる学者の中にも後進の研究意欲をもり上げてくれる型と何となく意欲をそいでしまう型とがあり、同学の志をふやそうとする人となるべく自分だけで楽しもうとする人との 2 つの型があることを、師事しようとして数回接した魚の寄生虫学者から感じとったからである。卒業後阪大微研に奉職し、寄生虫学の世界的権威吉田貞雄博士から直接指導を仰ぐこととなった私が、先生の温顔とほとぼり出る寄生虫学研究への熱情に接し得た時の喜びは未だに忘れ得ぬ感激の一時であった。先生の意を体し、本格的な寄生虫分類学の基礎をつくることに専心することとなった私は、先ず吸虫類から入り、線虫類条虫類へと研究の歩を進めていった。分類学は研究に苦しむ割に結果は決して華々しいものではなく、実に地味

な学問である。昔は我国でも、たとえ後日寄生虫の他の方面の研究に進む人でも一通りの分類学は修得したものであったが、近年は寄生虫学に限らず、昆虫学でもそうであるように、本格的に分類学に専心する人は極めて、稀れて、今日は寧ろ「今時物好きな人だ」と思われる程になってしまった。これには、分類学だけでは就職も難しいという今日の世情が学生や研究生ばかりでなく、指導者側にも強く響いていることが大きな原因となっているようだ。今でこそ我が国にも世界的寄生虫分類学者としての山口左仲博士が居られ、総ゆる寄生虫の同定が完全になされてはいるが、博士は近く渡米され、アメリカ永住証が伝えられている。将来我国寄生虫学界に於ける分類学の一角は正に弱体化の一路をたどり、遂には崩壊が憂慮されるのである。心ある寄生虫学者の間では後継者の養成が真剣に望まれているのもこの為である。

(農博・本館理事) ナウカの窓 Vol. VI No. 3-4 より

### 寄生虫標本目録出版

さきに寄生虫標本目録第1版を出版して、昭23~31の間に集まった380点を整理したが、今回その追加第1号として、昭32~34の間の1,089点を分類発表した。これには田熊清一郎先生の研究資料351点、福井玉夫博士の273点の紹介のほか、故中川幸庵博士より寄贈をうけた貴重な資料の写真も掲載して記録にとどめた。

### 静岡寄生虫研究所より来館

8月5日静岡寄生虫研究所大野吉夫氏他一行が来館され、静岡地方の寄生虫の事情について有益なお話を聞くことができた。今後は同研究所とも連絡をとって相互に利益をはかることができるだろう。

### 沼津市三津水族館でイルカの解剖

鯨研西脇博士の厚意により三津水族館におけるゴンドウイルカの解剖に館員亀島俊也が参加をゆるされ貴重な資料を得ることができた。今後もこのような機会を与えられることを希望してやまない。

### 夏休みを利用したの研究生

夏休みを利用して研究にくる学生は毎年少くないが、本年も相当数の申込みをうけた。特に目黒学園高校1年田中鈴子君は7月22日より8月31日まで連日来館して魚類の寄生虫について熱心に勉強しレポートを書きあげた。我々はこの様な申出には全力をあげて協力し、寄生虫に関する知識の普及につとめたいとおもう。

### 標本及び文献の寄贈

- 7月31日、東海林菊治氏……マムシの内蔵6点
- 8月1日、三津水族館……イルカの寄生虫
- 8月13日、藤田諱受氏……青森県産カニ
- 8月13日、目黒ユネスコ協会……西多摩郡五日市よりカニ多数
- 8月15日、菅生氏……淡水魚
- 8月22日、岡本広太氏(京都)……広節裂頭条虫など9点

8月27日、上野科学社……ガラバゴス島のウミトカゲ、ゴイサギ、グンカン鳥、カツオドリ他数点の内臓

8月4日、菅生氏……湯浅名著『細胞学』

8月16日、出納氏……市野瀬潜著『葉草ミブヨモギ』

8月26日、横川宗雄博士……「南伊豆地方のドロレス顎口虫」他8篇

8月19日、金沢文庫研究

### 当館より寄贈

8月16日、Dr. R.S. Tandon (India)へ  
Acanthocephala 4点

8月17日、Dr. Ryšavý (Czechoslovakia)へ  
Acanthocephala 6点

8月25日、日本教育テレビへ資料

### 短 信

8月7日 岩手県千厩高校の及川五郎、五十嵐時男両先生が来館され、今後資料の呈供を約された。

8月9日 駒場小学校白井氏他一行来館

8月10日 館長は糖業会館にて講演

8月25日 葉事日報2835号に館員木原緑著「魚の寄生虫」掲載

8月9日 読売新聞に博物館紹介記事として目黒寄生虫館紹介

8月27日 上野科学社へ館員出張

### 生物学同好会

8月は植物採集の予定であったが、講師の都合により中止、9月は杉靖三郎博士の生理学統講。

### 特別展示パラサイト

『珍しい寄生虫 ベンネラ』

9月1日より2ヶ月間ベンネラについて特別展示をしている。須磨水族館、鯨類研究所より呈供をうけたマンボウやナガスクデラのベンネラを陳列して解説を加えている。

野生鳥獣類の寄生虫〔Ⅱ〕

前回に引続き昭和31年4月より32年10月まで行

った172体の鳥獣類より発見された寄生虫を表示する。

被 検 動 物 名	実 験 動物数	寄 生 虫 名
ケアシノスリ	1	Porrocaecum sp.
オオタカ	2	
トビ	3	Porrocaecum angusticolle (Mollin,)
アマサギ	1	Synhimanthus invaginata (Linstow,) Microtetrameres spiralis (Seurat,)
チュウサギ	9	Contraecaecum sp. Porrocaecum angusticolle (Mollin,)
コサギ	2	Haploparaxis sp. Anomotaenia sp. Acanthocephalus sp.
ダイサギ	1	Eustrongylides sp.
ゴイサギ	1	Contraecaecum reticulatum (von L.,) Porrorchis elongatus Fukui
ヨシゴイ	1	
カモ	2	Echinostoma revolutum (F.,) Diploposthe laevis (Block,) Hymenolepis angularostris Sigim.,
スズカモ	2	Echinostoma revolutum (Frölich,) Hymenolepis nyrocae Yamaguti,
ヨシガモ	3	Echinostoma gotoi Ando et O., Notocotylus attenuatus (Rud.,)
ヒドリガモ	1	Notocotylus attenuatus (Rud.,)
オナガガモ	1	Echinostoma revolutum (F.,) Notocotylus attenuatus (Rud.,)
マガン	1	
オシドリ	2	
カワアイサ	1	

関東地方を中心とした野生鳥獣類の寄生虫検索 (2) 昭和34年4月, 第28回日本寄生虫学会報告より, 亀谷了, 野々部春登, 鈴木俊邦, 町田昌昭 (この項つづく)

ニューオルリンズ通信 ⑭

大島智夫

漸く当地に滞在も終りに近くなって来ました, 時の経過の感覚は非常に心理的な要素が強いです。無為徒食すれば一日ももて余す長い時間ですが多くの見

聞と学ぶ機会の多い時は終りに近づくにつれ加速度的に早くなるような気がします。10ヶ月以上もたつてボンヤリわかってくるものの1つにアメリカの政治情勢があります。今日は少し息抜きによしの髓から天井をのぞく式ですが南部の一隅で体得した国内事情をお伝えしましょう。

第1に民主党というものが日本にいた時に漠然と進

歩的な社会主義的な色彩の強い政党だぐらに思っていたのが全く見当違いでした。南部一帯は Solid south といわれて住民は一斉に民主党に投票するので昔から有名で日本流に言えば民主党の金城湯地という所です。共和党は全く有りません。これはリンカーンが共和党の創始者であるというだけの事でつまり南部の敵は共和党であって共和党の政府に一敗地にまみれたという百年前の感情が今日まで続いているわけです。タイム誌は共和党の宣伝雑誌だという見解から頭から読もうとしない人も随分居ります。今日ケネディーが次期大統領候補となりましたが南部に根強いカトリック勢力があとおしをしている事も想像に難くありません。今日のケネディーに対する米国カトリック教会の熱のいれようは大変なもので若し実現すれば米国初代のカトリック信者の大統領になるわけですから表面は宗教による盲目的な投票は歓迎しないなどいっていても衣の下からは信者ケネディーに投票しない者は破門する位の陰の圧力をちらつかせているものと見て間違いありません。政治と宗教の陰の野合がどんな結果を生むかケネディーが大統領になった場合の米国の将来に対して我々は多少の危惧をいだかざるを得ません。

北部大企業をバックにした共和党にしても首脳会議後急速に地に落ちたアイクの人気。(グラント以来無能大統領と酷評するむきもあります)を前にニクソンをたてて勝算がどの辺まであるのか予測の全くつかない状態です。要はアメリカ三つの癌、対外援助、農業政策、黒人問題を如何に処理してクレムリンに対するかなのでしょうが全く頭の痛くなる事ばかりという現状でしょう。黒人問題一つにても人道主義をふりかざして簡単に差別撤廃をするわけにゆかぬ複雑な事情があり私でも当地で黒人街の中に住もうとは思いませんし子供がいたら黒人の学校にはやりたくないと思うでしょう。

Medical School をでれば皆臨床家になり。もっとはっきりいえば開業して高額な収入を楽しむわけです。Tulane Medical School は米国内でランキングは五六番目という所ですがそれでも医学教育課程に必要な費用だけで1人最低1万ドルですから、余程余裕のある家庭でなければ子供を一流の医科大学にやれませぬ。(入学試験を受けるのに学校側から父兄にそれだけの費用を負担能力のある事を要求しています)

あるいは特殊な場合に銀行から金を借りて大学を出て返済する事もあるようです。つまり儲の多い企業に金を借すのと同じです。学生の方もこれだけ金をかけたのだから将来の高額の収入も当然であるとして、基礎医学などに残ろうとするものは殆どないようです。「これは当然基礎医学関係の分野に Ph. D. の進出をうながし M.D. の教授は非常に少いのが現状でしょう。」。はっきりいえば医者となる事は仁術を施すためよりむしろその高額な収入が目当てである以上何を好んで高い月謝をだして低い収入の研究者となる必要があらうかという所です。我が国でも年々この傾向が強くなって来る事は事実です。遠からず、基礎医学の講座は教授の欠員になやむというような時が来るでしょう。もしそういう事態に処しても頑迷に医学部教授は医学部出身者に限るという立場をとっていたのでは益々貧困におちいるだけですがそれといって理学部出身者に適当な人があるかといっても殆ど見当らないでしょう。動物学を出てある特殊な寄生虫の生理の研究をしていても Medical Parasitology を講義するわけにはゆきませぬ。理学部を出られても寄生虫学関係で身を立てられようとする方は少なくとも病理学、免疫学、細菌学、疫学等の基礎知識が必要です。

寄生虫学の様な医学、生物学の限界領域にある学問では M.D. Pn. D. の職業意識による対立は有害無益で相互の特徴を互に学びながら進む必要があります。日本ではそれが可能だと思えますが。

(医博・公衆衛生院)

## ニューオルリンス通信 ⑮

大島智夫

私がここで興味をもつ一つの問題に M.D. および Ph. D. の問題があります。米国一般の風潮として

### お 願 い

当館の内容を充実するために寄生虫と関する資料、標本、文献の御寄贈を御願ひします。